



日常にありふれた風景を観光資源に～ “ハローキティにあえる街”多摩市での新たな取り組み

帝京大学 経済学部 観光経営学科 大下ゼミ

■「多摩ニュータウン」と「多摩地区の交通の要衝」

高度経済成長期をくらしの面で支えた「多摩ニュータウン」とともに成長してきた人口約15万人(2017年現在)のまち・多摩市。京王線、小田急線、多摩都市モノレールが通っており利便性が高く、東洋経済新報社の「住みよさランキング2015」の総合評価でも、都内の市区町村で3位(関東で15位)と上位にランクインしています。「多摩ニュータウン」の整備から約40年、入居者の高齢化の問題もあり、来街者を誘致する取り組みによってまちに活気をもたすことが課題となっています。



市内に架かる「ふんすい橋」からの眺め。歩車分離で整備された安心・安全できれいな街並みです。

■ハローキティにあえる街!「多摩センター」

多摩市が力を入れているのが「シティプロモーション」。2003年にハローキティを「多摩センター親善大使」に任命し、多摩センター地区を「ハローキティにあえる街」と制定しました。サンリオのキャラクターのラッピングバスや、キャラクターを起用した案内板の設置などの取り組みのほか、なんと「ハローキティの絵柄入り住民票」の交付!まで行っています。また、市内にはアニメ映画「耳をすませば」のモデルとされる道や、「仮面ライダー」をはじめとした特撮ヒーローものや、ドラマや映画のロケ地としても頻繁に登場します。



12/1に多摩センター駅近くで開催された「ハローキティにあえる街イルミネーションスペシャルパレード」は大盛況!

■文化芸術振興の中心として期待される「パルテノン多摩」

多摩市を代表する施設といえば、ギリシャのパルテノン神殿をモチーフとした複合文化観光施設「パルテノン多摩」があります。1987年から多摩市のシンボルとして存在してきたパルテノン多摩も、施設や設備の老朽化が目立つようになり、大規模改修が予定されています。新しく綺麗に生まれ変わるパルテノン多摩が、多摩市の文化芸術振興の中心となっていくことを願っています。



文化芸術の中心地パルテノン多摩前にも期間限定でキティちゃんがお目見え!

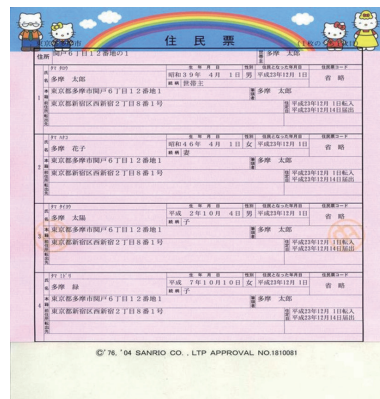
■新しい原石「橋」～よそ者・若者ワークショップ

多摩市には多くの魅力が眠っています。多摩市では「多摩市観光振興に関する意見交換会」を開催し、新たな観光の原石を探す取り組みを行おうとしています。よそ者、若者だからこそ見えている地域の光があると信じ、ゼミ活動の一環として多摩市内に多く架かる「橋」に着目した地域探訪を実施しました。なんと市内には180以上の橋があるのです。

キャラクターやアニメを活用した「シティプロモーション」、生まれ変わる「パルテノン多摩」を中心にした文化芸術の振興、そして周辺の緑や身近な自然を含めた「橋」が新たな魅力として加わることにより、多摩市が、新宿から高尾山まで行かなくても気軽に楽しめる場所となれば良いと願っています。



ゼミの時間に「橋」の現地調査の結果を振り返りながら「よそ者・若者ワークショップ」の準備中!



ハローキティの絵柄入り住民票
出典:多摩市役所ホームページ

<http://www.city.tama.lg.jp/0000002646.html>

【執筆者】

上田裕樹・児玉裕莉子・奥山いちご
(帝京大下ゼミ)